

古河歴史見聞録

新版画——芸術作品としての新しい木版画

江戸時代に流行した浮世絵版画は、国内外で高く評価される日本の伝統芸術です。しかし、かつての浮世絵は世相を反映する役割を担う一面もあり、一般大衆が、いわばメディアとして楽しむ要素を持つものでした。そのため、明治末期には写真や新聞等の発展により、その役割を終え衰退することになります。

新版画とは

大正時代になると、浮世絵の伝統技術を引き継ぎ、新しい版画を創る活動が現れ、その作品が世に出るようになります。版元・渡邊庄三郎(1885~1962)が創始した「新版画」です。版元とは、昨年NHKで放送された大河ドラマの主人公・鷹屋重三郎と同様、浮世絵の企画から版行までを総括する責任者のこと。渡邊は浮世絵の継承を念頭に、近代的な感覚の新しい木版画を版行したのです。従来、浮世絵は絵師、彫師、摺師の分業制で作られます。版画は、この彫師と摺師の伝統技

術に、新時代の絵画様式を反映した芸術作品としての木版画を目指し、特に画家の意図を尊重して制作する点を特徴としていました。

渡邊庄三郎と新版画運動

渡邊庄三郎はお隣、現在の五霞町の出身。上京して後に浮世絵商となり、主に欧米人を顧客に浮世絵やその複製版画を版行して販売、明治42年に渡邊版画店を創業しました。大正4年、来日中のオーストリア人画家フリツ・カペラリの水彩画を見た渡邊は、彼に新しい版画表現の可能性を感じ版画の下絵を描かせ、新版画を試作します。その後、橋口五葉(はしぐちごよう)は、伊東深水(いとうふかず)や川瀬巴水(かわせ はるみ)など日本人画家や外国人画家と組んで新版画を次々に版行していきました。イギリス人版画家エリザベス・キースもその一人。大正4年に来日以来、長く滞在し、日本や旅先の中国、朝鮮半島などの風景や風俗、文化などを描きます。大正8年にキースの水彩画が渡邊の目に留まり、以後、新版画を制作

するようになりました。なお、左図は、キースが大正13年以降に学んだエッティングの技法で朝鮮の伝統音楽奏者を表現した作品です。

新版画と藤懸靜也

ところで、この新版画、実は古河と浅からぬ関係があります。古河出身の美術史家で浮世絵研究の第一人者・藤懸靜也の存在です。渡邊の新版画運動に賛同した藤懸は、大正3年に渡邊と「浮世絵研究会」を組織。翌年、新版画版画を視野に入れ、国内で美術としての浮世絵に対する関心を高めるため『木版浮世絵大家画集』を出版します。複製浮世絵版画と浮世絵



▲エリザベス・キース「管絃奏者」

新版画の人気

新版画は、制作当時から欧米で販売を兼ねた展覧会が開かれ、高い人気を得てきました。その後、日本でも新版画の展覧会が開催され好評を博し、現在でも国内外で愛好されています。ちなみに、スティーブ・ジョブズも新版画に魅了され、コレクションしていたことが知られています。毎年、新版画を取り上げた展覧会は各地で開催されていますので、興味のある人は、ぜひ、足を運んで新版画の魅力に触ることをお勧めいたします。

古河歴史博物館学芸員 倉井直子



【一般書/小説】
女人太平記
羽生飛鳥 著
関東申次として権勢を振った西園寺家の若き当主・公宗の正室となった日野名子。だが彼女の栄光の日々は、後醍醐院の謀略と足利尊氏の裏切りにより、あっけなく失われ…。激動の室町幕府揺籃期を活写する歴史長編。
出版社…PHP研究所

【児童書/読み物】
スタートライン
本田有明 作
花先生の笑顔につられて、なんとなく陸上クラブに入ったぼく。そばにいてくれる親友と一緒に走るなかで、自分の体を知り、陸上の楽しさを感じられるようになる。そして近づく、駅伝大会の日。ぼくは選手に選ばれるのか?
出版社…金の星社

古河図書館



名崎ヤンkees
(軟式野球)



チームデータ

- ▼活動日
土・日曜日、祝日: 8時30分~16時頃
- ▼活動場所
尾崎ファミリースポーツ公園
- ▼問
中澤明夫 Tel 090-3346-7753



HP Instagram